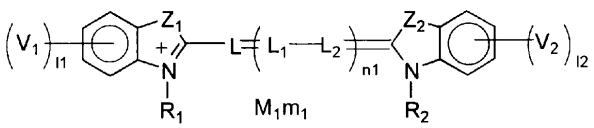
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成17年6月30日(2005.6.30)

【公開番号】特開2000-29156(P2000-29156A)
【公開日】平成12年1月28日(2000.1.28)
【出願番号】特願平11-50994
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０３Ｃ　1/035
　Ｇ０３Ｃ　1/00
　Ｇ０３Ｃ　1/07
　Ｇ０３Ｃ　1/16
　Ｇ０３Ｃ　1/18
　Ｇ０３Ｃ　1/20
　Ｇ０３Ｃ　5/26
【ＦＩ】
　Ｇ０３Ｃ　1/035　　Ｃ
　Ｇ０３Ｃ　1/035　　Ｂ
　Ｇ０３Ｃ　1/035　　Ｈ
　Ｇ０３Ｃ　1/00　　Ｂ
　Ｇ０３Ｃ　1/07
　Ｇ０３Ｃ　1/16
　Ｇ０３Ｃ　1/18
　Ｇ０３Ｃ　1/20
　Ｇ０３Ｃ　5/26

【手続補正書】
【提出日】平成16年10月12日(2004.10.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
少なくとも１層の感光性ハロゲン化銀乳剤層を有するハロゲン化銀写真感光材料であって、該乳剤層に含まれるハロゲン化銀粒子は少なくとも８０モル％の塩化銀を含有し、全投影面積の８０％以上が、アスペクト比２以上である｛１１１｝主面を有する平板状粒子であって、かつ該平板状ハロゲン化銀粒子が下記一般式（Ｓ）で表される色素により分光増感されていることを特徴とするハロゲン化銀写真感光材料。
一般式（Ｓ）
【化１】



式Ｓ中、Z_1 およびZ_2 は硫黄原子、セレン原子、酸素原子または窒素原子を表す。V_1 およびV_2 は一価の置換基を表す。ただし、V_1 およびV_2 は芳香族基や隣接する二つ以上で互いに結合して縮合環を形成することはない。l_1 およびl_2 は０、１、２又は３を表す。Ｌ、L_2 およびL_3 はメチン基を表す。R_1 およびR_2 はアルキル基を表す。

n_1は０、１又は２を表す。m_1は分子の電荷を中和するに必要な０以上の数を表す。M_1は電荷均衡対イオンを表す。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】請求項５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項５】
デジタル走査露光されることを特徴とする請求項４に記載の画像形成方法。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
式Ｓ中、Z_1およびZ_2は硫黄原子、セレン原子、または酸素原子を表す。V_1およびV_2は一価の置換基を表す。ただし、V_1およびV_2は芳香族基や隣接する二つ以上で互いに結合して縮合環を形成することはない。l_1およびl_2は０、１、２又は３を表す。Ｌ、L_2およびL_3はメチン基を表す。
R_1およびR_2はアルキル基を表す。n_1は０、１又は２を表す。m_1は分子の電荷を中和するに必要な０以上の数を表す。M_1は電荷均衡対イオンを表す。
２．全銀量に対して少なくとも０．１モル％の沃化銀を含有し、かつ最外層に１モル％以上６モル％以下の沃化銀を含有する平板状粒子からなることを特徴とする１に記載のハロゲン化銀写真感光材料。
３．ハロゲン化銀粒子が下記一般式（Ｉ）、（II）あるいは(III）で表される化合物から選ばれる少なくとも１種の存在下に形成されていることを特徴とする１または２に記載のハロゲン化銀写真感光材料。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
V_1およびV_2は一価の置換基を表す。ただし、V_1およびV_2はアリール基や隣接する二つで互いに結合して縮合環を形成することはない。l_1およびl_2は０、１、２、３を表す。R_1及びR_2はアルキル基を表す。Ｌ、L_2およびL_3はメチン基を表す。n_1は０、１または２を表す。M_1は電荷均衡対イオンを表し、m_1は分子の電荷を中和するのに必要な０以上の数を表す。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
Ｌ、L_2、及びL_3はメチン基を表す。Ｌ、L_2、及びL_3で表されるメチン基は置換基を有していてもよく、置換基としては例えば置換もしくは無置換の炭素数１から１５、好ましくは炭素数１から１０、さらに好ましくは炭素数１から５のアルキル基（例えばメチル、エチル、２－カルボキシエチル）、置換もしくは無置換の炭素数３から２０、好ましくは炭素数４から１５、さらに好ましくは炭素数６から１０の複素環基（例えばＮ，Ｎ－、ジエチルバルビツール酸基）、ハロゲン原子（例えば塩素、臭素、フッ素、沃素）

、炭素数１から１５、好ましくは炭素数１から１０、さらに好ましくは炭素数１から５のアルコキシ基（例えばメトキシ、エトキシ）、炭素数１から１５、好ましくは炭素数１から１０、さらに好ましくは炭素数１から５のアルキルチオ基（例えばメチルチオ、エチルチオ）、炭素数０から１５、好ましくは炭素数２から１０、さらに好ましくは炭素数４から１０のアミノ基（例えば、Ｎ－メチルピペラジノ）などが挙げられる。また、R_1、R_2と共に環を形成することもできる。好ましくは無置換のメチン基である。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】

n_1が０のとき、Ｌとして好ましくは無置換メチン基である。n_1が１のとき、Ｌ、L_3として好ましくは無置換メチン基であり、L_2として好ましくは炭素数１から４の無置換アルキル基で置換されたメチン基であり、さらに好ましくはエチル基で置換されたメチン基である。

n_2が２のとき、ペンタメチンシアニンになるが、好ましくはメチン鎖が架橋された場合である。

なお、n_2が２のときL_2、L_3が繰り返されるが同一である必要はない。